

- トヨタ自動車、タイヤが脱落するおそれがあるとして使用停止を呼びかけていた「bZ4X」・スバル「ソルテラ」について、原因が判明し、恒久対策が決定したとして再度リコール
2022年3月2日～6月2日に生産した204台
ディスクホイール取付部において、ホイールの加工およびハブボルトの仕様が不適切なため、ハブボルトの締結力が車両の走行性能に対して不足していたというもの。そのため、連続した急加速や急制動の繰返し等でボルトが緩むことがあり、走行を続けると異音が発生し、最悪の場合、タイヤが脱落するおそれがあるという。全車両、ディスクホイールを良品に、ハブボルトを対策品に交換。取扱説明書もハブボルトの取扱いに関する注記を記載したものに交換する。また新たにカーテンシールドエアバッグに関するリコールも届け出た。展開補助用のストラップが正規位置に組付けられていないものがあり、エアバッグ作動時に正常に展開できず、最悪の場合、乗員が負傷するおそれがある。
- トヨタ自動車、「ヤリス」のハイブリッドシステムに不具合があるとしてリコール 2019年12月11日～2020年9月16日に生産した3万7674台
ハイブリッドシステム制御プログラムが不適切であることが判明。急加速等でトランスアクスルのインプットダンパーに一時的な滑りが生じて警告灯が点灯した際、フェールセーフモードに移行できず、ハイブリッドシステムが停止するおそれがある。
- 日野自動車、「日野レンジャー」のクラクションが鳴らないおそれがあるとしてリコール 2017年4月5日～2019年9月17日に生産した4万0458台
クラクションのボディの材質が不適切なため、インナーフェンダの隙間から侵入した融雪剤を含む水分がかかると、内部が腐食することがある。そのため、クラクションが作動しない恐れがある。
- ポルシェジャパン、「マカン」等計19車種について、ブレーキブースター警報に不具合があるとしてリコール
2014年9月29日～2022年4月13日に輸入した2万4271台
ブレーキブースター警告装置において、インストルメントクラスタのプログラムが不適切なため、ブレーキブースターの故障時に警告灯が点灯せず、警告メッセージ確認後には誤った警告灯が点灯し、保安基準に適合しないおそれがある。